

経営方針と対処すべき課題（有価証券報告書より）

① 目指す姿と数値目標

経営方針

GX・DX等による電力需要増への安定供給責任の全うと事業成長、財務改善を進める

年平均資金捻出
1,200億円程度

② 中長期の経営戦略

1. 送配電事業領域の基盤強化と高度化

労務費・資材市況上昇への対応として、工事の優先度精査やコストダウン、施工力確保を実施。大規模供給ポテンシャルマップ公開で持続可能なネットワーク構築を推進

3. 次世代ネットワークの構築

電力需給バランス最適化の技術開発・実証を実施。S+3Eの磨き込みによる新たな顧客ニーズ対応

2. デジタル需要への電力供給早期化

データセンター等の大規模需要に対応。分散型電源や蓄電池の活用によるエリア需給最適化と、プッシュ型・参加型の設備形成で早期供給を実現

4. アライアンスと大胆な改革

資金・技術・能力補完のアライアンスを追求。工事会社・メーカー・他一般送配電事業者との協働でサプライチェーン全体改善

③ 対処すべき課題

① 事業環境の急速な変化への対応

- ・物価高騰と施工力不足への対応
- ・GX・DX進展による電力需要増への対応
- ・地産地消型需給ニーズへの対応

② 大規模デジタル需要への早期対応

- ・データセンター向け電力供給体制の整備
- ・高経年化設備の計画的更新
- ・地域との協働による効率的系統整備

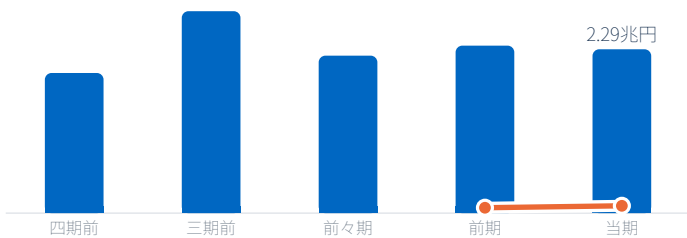
③ 財務改善と福島責任の両立

- ・年平均1,200億円捻出による廃炉資金確保
- ・非連続な経営効率化の実施
- ・カイゼン標準化とDX導入推進

面接で使えるポイント

- ・GX・DXによる電力需要増への対応で、データセンター等の大規模需要に早期供給可能な体制整備を推進している点
- ・年平均1,200億円捻出と非連続な経営効率化で福島責任と事業成長を両立させる取り組み
- ・工事会社・メーカー・他一般送配電事業者との協働を通じた、サプライチェーン全体の改善を進めている点

業績の推移（売上＝棒／営業利益＝線）



※営業利益は直近2期のみ開示（有報の様式変更による）

要するに

当社、子会社11社及び関連会社20社(2026年 3月31日現在)で構成され

主力事業・セグメント

・電気・ガス業（セグメント未開示）

強み・特徴（公開データから）

・連結売上高2.29兆円の大企業

※要約はAI生成のため誤りを含む可能性があります

暗記する数字3つ

連結売上高

2.29兆円

営業利益率

4.5%

財務健康度

25点 / 100点

将来性 曇り / 就活偏差値 48.3（当サイト算出の参考指標）

平均年収

－（未開示）

平均年齢

－（未開示）

平均勤続

－（未開示）

※平均年収は提出会社単体・有価証券報告書ベース。順位は同33業種内の掲載企業での比較。

ここから下は自分で書く（面接で話すこと）

志望動機の核

上の数字・事業と接続して書く

自分の経験との接点

逆質問メモ

※1つはデータ起点で（例：勤続年数が長い要因は…）

直近ニュース一言

